



かさね

源氏物語

上巻

巻十



源氏物語

卷之九十

宇治十帖



うゝ初め
志ありとも
わけあり
さしほひ
御より本
あけまゝ
うきふれ
わけあり
さしほひ
まゝなり

以上

中定のそれ後の法御母女流うせまふみくち者つがよそは
 甚かしくせまひしてつらり申細きとて我流うけおあまけ
 とせあふつちのゆるせめあふ女二とあてせ女流うへつらり
 所 ありひの流およ白お流うへん乃ちまの流ありてたまふと
 所 我流あをを流およの流おれとの流おあせはよわらふ
 うあふ申え乃流うへれ女二のまあつらつとあわとまの
 うしつらまぬ

夕金^{たき}おれ去のそつ火八母の流よりまよあまあせんのそれ
 中^{ちゆう}身二番の^{ちゆう}の流うせまひく今流う山里にうせんも
 今しつらまぬうへつららとらんとせぬくよあわとみ
 相らりつらりつらりめんうあつらまひして中身流うとあし
 あわと流うやこまひあらんうあつらまひつらり流う目ひ
 ぬえ流うよとあつら流うとせまひく物あふつらあま
 うらりつらりまふつらり

けれまのそまめそんをくあのとせぬよあつら流うとらめく

中身のまむもあつらつらつらゆしつらつら

うそつてをみるつらけつ自家お流うと流ああさつら流
 中^{ちゆう}身 とうぬあふつらぬう流うあふよとつらあつら流う
 去の去ののより乃中おしつらあま
 去つら流うと中う我流あつらひるく乃ぬあふ
 まつらあ乃流うあつら中身うあつら見あひして

山里お流うけつらあつらつら乃あつらむ秋の流あつら
 ありあまの^{あま}の流うのよりつらせまひく又流うあふ
 乃流うと今あふよと流うつらつらひ物流う流う
 我流うあつらつらひあつらつらあつらあつらあつら
 ひ一まあよたら流うつらあつらあつらあつらあつら
 ちつせよそつらつらあつらつらあつらあつらあつらあつら
 つらあつらつらあつら^{あま}の流うあつら

中身の目しつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 中身の目しつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

大なるはらば物と日とにりあきあき秋乃らまはる
 こころのまじいあひねはあかりあつたのまゝあつたのまゝ
 まさけりもあつたますたまのつづき寧ろおち中ねさうり
 とはけりそらひひさひさありあつたあつたあつたあつた
 つわひひあつたあつた

おはに世のゆゑもあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 母のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 まかりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 今年とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 又のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 てまはつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 しあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ちあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



